

五色沼自然探勝路モニタリング報告

【目的】 標記探勝路における人為的および非人為的变化（自然変化）を定期的に観察し、当該探勝路の利用および保全整備に資する

【結果】

1. 探勝路中の青沼、るり沼、弁天沼および毘沙門沼における、通景線確保のための“葦”倒伏作業後の状況
 - * 通景線については、シーズン中を通して確保されている
 - * 方形区を設定しての詳細な植生調査は、県自然保護課の調査結果に待つ
 - * その他
2. 探勝路中の歩道整備箇所（終了箇所含む）部分
 - * 概ね利用者の利便性の向上、安全確保には効果が見られる
 - * 一部木道の両端部に段差やぬかるみ等が発生している
3. 探勝路中および周辺部における特定外来植物オオハンゴンソウの分布
 - * オオハンゴンソウの分布は、探勝路の両端部（東西出入り口）の密度が濃い
 - * その他、探勝路中央部（弁天沼他）の路傍にも密度は低い点状分布する
4. 五色沼湖沼群の冬期間の水系および水質
 - * 各沼を繋ぐ水系については、まだ十分には確認できていない
 - * 五色沼湖沼群における各沼のpHおよび水温は、別表に示すとおりである
5. その他
 - * 柳沼畔にあるミクリ（準絶滅危惧種）は、比較的順調に生育している
 - * 弁天沼畔にあるアカマツに、多くの立ち枯れ状態が見られる

【考察】

1. 葦の倒伏および障害木の除去により、通景線はほぼ確保されている。しかし、当該作業に伴う周辺植生への影響は、福島県による詳細な調査が行なわれているのでその結果を待ちたい
2. 歩道整備部分は、概ね利用者の利便性の向上および安全の確保には効果を発揮しているが、一部さらなる補修が望まれる
3. 五色沼探勝路のオオハンゴンソウについては、毎年夏の駆除作業の効果が認められる

が、さらに駆除範囲を広げて、点在するものについても早めの駆除が必要である

4. 湖沼群の水系については、さらなる調査が必要である。また、水質の変化についても調査項目等の検討が必要である
5. その他、柳沼畔のミクリについては、今後も継続調査が必要と思われる。また、弁天沼畔に限らず、アカマツの立ち枯れ状態が各所に見られるようになっているので、ある程度場所を特定した継続調査が必要と思われる
6. これらモニタリング活動は、今後も継続して行なわれるべきものとするが、その項目、調査方法などについては有識者からのアドバイスを乞う必要がある

【概要】

(1) 実施期日

- ※第1回 平成22年6月11日
- ※第2回 平成22年7月15日
- ※第3回 平成22年7月25日
- ※第4回 平成22年7月30日
- ※第5回 平成22年9月30日
- ※第6回 平成22年11月5日
- ※第7回 平成22年12月11日
- ※第8回 平成23年1月22日
- ※第9回 平成23年2月14日

(2) 調査者

- ※平野 恭弘（裏磐梯エコガイドの会）
- ※伊藤 延廣・鈴木 正代（裏磐梯エコツーリズム協会）

(3) 調査項目及び結果

- 1) 平成21年度の調査に基づき通景線確保部分について定点観測結果をP6～12に示す
- 2) 平成21年度の調査に基づき木道など整備箇所（終了箇所も含む）部分について定点観測結果をP13～15に示す
- 3) 特定外来種・オオハンゴンソウについて定点観測結果をP16に示す
- 4) 冬期間の水系調査について定点観測結果をP17～20に示す
- 5) その他について結果をP21に示す